

大学生が資料の内容をまとめる活動に関する一考察

魚崎祐子 (玉川大学)

キーワード：ジグソー学習，資料まとめ，予習課題

問題と目的

大学において能動的な学修が重視されるようになった今日，従来多く行われてきた講義形式の授業以外にも学生同士の学び合いを含む授業が多く行われるようになってきている。筆者の授業の中でも学生たちで意見を交換しあったり，情報を伝えあったりする方法をとることがあるが，どのような情報をどのように伝えているのかを把握するのが難しいという課題がある。伝える側がどの程度の情報を持ち，どのような伝え方をしているのかによって，教室全体の学びの質は大きく変わってくるだろう。

本研究では，ジグソー形式を取り入れた大学の授業において，他者に説明するために情報を準備するという目的で配付資料の情報をまとめる際に，どのような情報をどのようにまとめているのかについて検討することを目的とした。

方 法

対象

「教育心理学」の授業の受講生 64 名を対象とし，課題のデータ提供への同意を得た。受講生の中には高校 3 年生から大学 4 年生までが混在しており，扱う内容についてあらかじめ持っていた知識は様々であった。

手続き

「発見学習」「有意味受容学習」「プログラム学習」という 3 つの題材について，ジグソー形式を取り入れた授業を行った。今回の授業のねらいとしては，上記 3 つの学習について理解することおよびジグソー学習や反転授業の経験をすることにより，それらの学習の特徴について学ぶことであった。

受講生には 3 つの題材のうち 1 つが担当として割り当てられた。担当する題材に関する配付資料を読み込むとともに，適宜他の資料などから補足しながら，「他の人に説明できる」ように内容をまとめることを予習課題として求めた。この状態で授業に参加し，授業内で同じ題材を担当した者同士が内容確認を行った上で，異なる題材を担当する者に教えるという流れで授業を行った。

本研究では授業に参加する前の段階で各自が予習課題としてまとめたものを回収し，内容の分析を行うこととした。

分析

各受講生から回収した予習課題に書かれた内容について，配付資料との対応や記述内容について分類することとした。そこで，配付資料の情報について，そのままの表現で一文以上言及されているもの，自分なりにまとめ直しているもの，誤情報（誤字，用語などを含む）が含まれているものの 3 種類に分類した。また配付資料以外を用いた説明については，今回の題材に関する正しい情報，学問的に誤った情報の 2 種類に分類した。

結果と考察

Table 1 に示すように，ほぼすべての受講生が配付資料の情報や表現をそのまま用いる形での説明を自身の課題に取り入れていた。このうち，18 名の課題には配付資料そのままの情報しか書かれていなかった。つまり，配付資料に書かれた情報を「抜き出し」「つなぐ」作業を「まとめる」作業として行っていた可能性が考えられた。

また，まとめた情報に配付資料内外からの誤情報が含まれる受講生が 14 名存在した。配付資料以外の情報も参考にすることで誤った理解をしてその情報を書き加えた者や，配付資料の情報を読み間違えたりする者も少なからず見られたということである。中には，漢字を読み間違ったまま異なる語として書いたり，文章として意味が通じないものを書いたりしている者も見られた。このように，資料を読む段階で正しく読めておらず，その情報をもとにまとめることで意味が通じなくなっており，自身の書いたものについても本当に理解できているのが怪しまれるケースもあった。

以上のように，個々の受講生がそれぞれ取り組んだ予習課題の段階で理解のレベル差があり，準備された情報の質の違いにつながっていることが示唆された。

Table 1 予習課題に含まれていた情報
(重複あり)

配付資料情報			配付資料外	
資料 どおり	まとめ 直し	誤情報	正情報	誤情報
63	27	11	24	4

付 記

本研究は科学研究費補助事業（基盤（C） 18K03067）による支援を受けている。